

令和初の浜松まつり

私の住む浜松市では、毎年5月3日～5日まで、「浜松まつり」というお祭りが開催されています。今年も相変わらず盛大に行われましたので、その様子を少し取材しに行ってきました。

そもそも、このお祭りはおよそ450年前の永禄年間に、当時の浜松を治めていた引間城主の跡継ぎ誕生を祝って凧を揚げたことが起源といわれています。それが庶民の間にも伝わり流行し、各町内や個人でも初子が産まれると凧を揚げる風習が広がったと考えられています。



浜松まつり1



浜松まつり2

江戸時代に定着をしたといわれている凧揚げは、明治以降になってさらに活気を帯びてきて、各町のあちこちで行っていた凧揚げを一箇所にまとめて盛大に行おうとの気運が高まり、現在のような形にまとまったそうです。戦前までは和地山練兵場（現在の和地山公園）で行われており、現在は中田島砂丘の西側の凧揚げ会場が舞台となっています。



浜松まつり3



浜松まつり4

荒々しい凧揚げの雰囲気から一変して、夜は市街地を中心に優雅な御殿屋台の引き回しが行われます。各町それぞれに趣向を凝らし、精巧な彫刻を施した屋台には子ども達が乗り、太鼓や笛などのお囃子を奏でて祭りに華を添えます。ライトアップされた屋台はとても幻想的で、たくさんの観光の方々の目を楽しませてくれます。



浜松まつり5



浜松まつり6

今回、取材をさせていただいて感じたことは、今年は非常に観光客の数が多かったということです。後で調べてみたら、公式の発表では209万7000人という数字が出ており、6年ぶりに200万の大台を超えたそうです。令和に入って初のお祭りであり、お天気にも恵まれたことが要因だったようですが、たくさんの方が静岡県を訪れてくれるのはとても有難いことです。



[浜松まつり7](#)



[浜松まつり8](#)

浜松人の「浜松まつり」にかける情熱はすさまじく、もう四月に入ったぐらいから法被を着た人達を見かけるようになり、お囃子やラッパの練習の音があちこちから聞こえてきます。それらの文化は長老から若い衆に脈々と伝えられ郷土の伝統となり、本番では老若男女みなが心を一つにして祭りを祝います。

この記事をお読みになって「浜松まつり」に興味を持たれた方は、ぜひ来年のゴールデンウィークに浜松を訪れて、熱い祭りの雰囲気味わってみてはいかがでしょうか？

浜松南部地区いきがい特派員 丸山敬